

〔収穫コンテナを活用したイチジクの簡易・安定生産技術の開発〕

## イチジクの収穫コンテナ栽培における品種適応性の評価

～定植3年目の樹体生育および収量，果実品質～

村田崇真・荒井那由他・杉田交啓\*

(園芸技術科) \*現農振事

---

【要 約】イチジク収穫コンテナ栽培3年目の樹体生育は，全品種で結果枝長 150 cm以上と生育旺盛である。総収量が多く，果実品質が良好な「ドーフィン，バナナクイーン，蓬萊柿」がコンテナ栽培に適していると考えられる。

---

### 【目 的】

東京都における直売果樹品目の拡大を目的に，導入しやすく有利販売が見込める品目としてイチジクの収穫コンテナを用いた簡易・安定生産技術の開発を行う。今年度は，定植3年目の樹体生育および収量，果実品質を把握し，品種の差を明らかにする。

### 【方 法】

1. 定植：購入した素掘り苗「ドーフィン」のほか，「バナナクイーン，カドタ，ビオレソリエス，ロードス，蓬萊柿」の計6品種を，2023年3月に用土50Lを充填した収穫コンテナ（容量66L，以下コンテナ）に定植し，無加温ビニールハウスで栽培した。
2. 栽植密度と栽培管理：コンテナを列間150cm，株間100cmで設置した（栽植密度66樹/100㎡）。栽培管理は「果樹の根圏制御栽培法導入マニュアル（栃木県農試）」に準じた。灌水は，生育ステージに合わせて実施した（生育盛期6L/樹・日）。冬期に根切りのため，コンテナ用土に穴（径30mm，深さ15cm，4ヶ所/樹）をあけ，堆肥を詰めた。
3. 調査：樹体生育について，2025年10月8日に結果枝数，枝長を調査した。収穫はコンテナごとに果実の硬さと色を基準に行い，果実品質は品種ごとにまとめて調査した。

### 【成果の概要】

1. 樹体生育：生育期に「ビオレソリエス」で1株枯死がみられた。結果枝長は全品種で150cm以上となり，「ドーフィン，バナナクイーン，カドタ，蓬萊柿」では170cm以上の枝数が多かった（図1）。
2. 収量：収穫開始日は品種による差がみられた（表1）。収量は，「バナナクイーン」が健全果158kg/100㎡で最も多かった（図2）。「ドーフィン，バナナクイーン，蓬萊柿」の総収量は多かったが，健全果率は70%を下回った。これは，夏季の高温により果実の萎縮がみられたことや，収穫盛期に曇天が続いたことが原因であると考えられた（データ略）。「カドタ，ビオレソリエス，ロードス」の収量は，定植2年目に引き続き少なく，コンテナ栽培には適していないと考えられた。収量盛期は，「ドーフィン」が8月中旬，「バナナクイーン，蓬萊柿」は8月下旬だった（図3）。気温の低下により果実肥大が緩慢になったため，10月上旬で収穫を打ち切った。
3. 果実品質：果実重は「ドーフィン，バナナ」が他品種より大きく，糖度は「ビオレソリエス」が高くなる傾向がみられた（表1）。果形は品種特性がみられた。

### 【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 引き続き，定植4年目の調査を行うなかで，食味評価等による直売適正調査を行う。

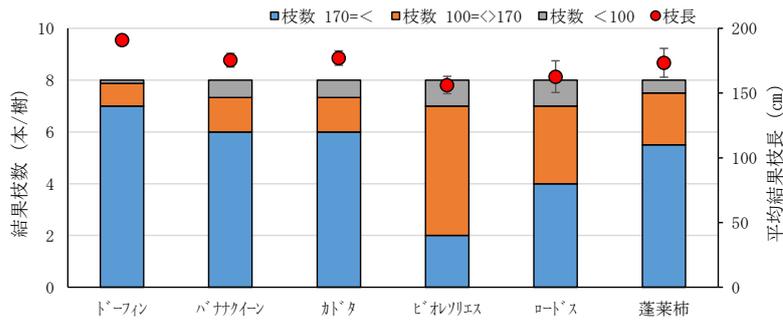


図1 収穫コンテナ栽培における品種ごとの結果枝数と平均結果枝長

注1) エラーバーは標準誤差。  
 注2) 樹形は一字短梢仕立てとした。結果枝を誘引角度が12度になるように棚を設置した。コンテナあたりの結果枝本数は、8本になるように芽かきで管理した。

表1 収穫コンテナ栽培における品種ごとの収量および果実品質

品種	収穫開始日 (月日)	収量		果実品質 <sup>a</sup>		
		果数 (個/100㎡)	果実重 (g)	糖度 <sup>b</sup> (Brix%)	果径指数 (縦/横)	硬度 (kg/㎡)
ドーフィン	7/25	3,762	69.9 a	14.6 ns	1.36 b	0.31 a
パナクイーン	8/6	4,972	63.6 a	13.7	1.59 a	0.29 ab
カドタ <sup>c</sup>	8/6	968	—	—	—	—
ビオレソリエス	8/25	2,211	41.3 c	16.9	1.11 c	0.30 ab
ロードス <sup>c</sup>	8/8	759	—	—	—	—
蓬萊柿	8/15	4,158	52.6 b	15.1	1.15 c	0.26 b

表中の品種ごと各項目において、異なる英小文字間にはTukey-Kramer法により5%水準で有意差あり。

a) 8/4~9/16収穫の果実品質。 b) 調査日ごとにまとめて測定。

c) 1回の収穫量が少なかったため、果実調査なし。

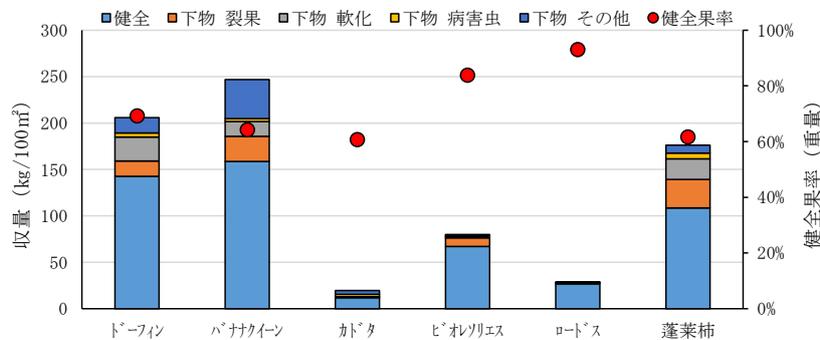


図2 収穫コンテナ栽培における品種ごとの収量および健全果率

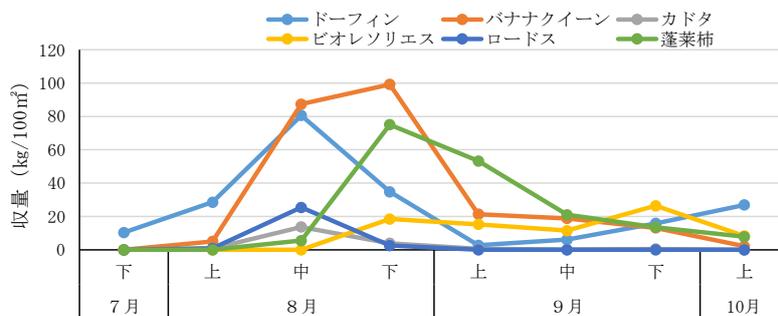


図3 収穫コンテナ栽培における品種ごとの収量推移